



神谷学市長 からの メッセージ

報道の主要ニュースが、コロナ禍からウクライナ情勢に入れ替わり久しくなります。皆さんの手元に本紙が届く頃には、戦闘が終結に向かっていることを祈っています。

平和が長く続いた日本で、戦争と言えば第二次世界大戦を連想しますが、その大戦から76年が過ぎており、戦時を生きた方々は少数派となっております。今日、戦争を知る手がかりは色あせた往時の記録類に頼るしかなくなってきました。

一方、情報化時代の戦争ではほぼリアルタイムに戦況が伝えられ、激戦地の凄惨さを実感させられます。戦地からの報道に目を背けたくはありますが、私は意識して直視に努めています。

「怖いのは暴力に慣れるのが早いこと。そして敵を死ぬほど苦しめたり不幸にしたいと思うようにもなる。それは正しいように思えるけど、自分の苦しみを相手にも味わわせようと考えること自体が恐ろしい」との激戦地での女性の声に良心の呵責を感じます。

本市は微力を承知で安城市議会とともに

ウクライナ報道に見た傷心

「ロシアによるウクライナ侵攻に対する抗議」を決議しました。おそらく世界各地で同様の行動がとられたことでしょうか、残念ながら具体的な成果にはつながっていません。戦禍に喘ぐ庶民や戦士たちの絶叫、そして広がる国際世論も、堅固な城塞の中で夢を続ける権力者に届かないという悲しい現実があるようです。

それでも、先の大戦も生き抜いたお婆さんは瓦礫の中で「戦争の時代に大切なのは優しさを持つこと、人を妬まず恨まないこと」と気丈に語りました。さらに、別の女性はウクライナ兵のことを「人間性を失うのは簡単だけど、一度失って後戻りはできない。終戦後、彼らが家庭に帰り父として息子として普通の暮らしに戻る時、人間性を保てるように何とかせねばならない」と心配していました。

まだ見えぬ戦後の暮らしも含め、世界は長期展望に立った戦災復興支援を考えねばならないと気づかされます。引き続き世界平和を希求し、私たち一人ひとりに何ができるのかを考え続けましょう。



ウクライナ避難民の支援活動を行う梶西氏(右)

市LINE公式アカウント 友だち募集中!

☎ 秘書課広報広聴係 (☎71)2202)

あなたの暮らしに役立つ情報をLINEで配信しています。募集、イベント・講座、暮らし・防災等のジャンル別に情報を受け取れます。

\\ 只今キャンペーン中! //

7月31日(日)までに友だち登録した人のうち、抽選で3000人にデンパークで使えるお買い物クーポン(500円分)が当たります。

※既に友だち登録している人も対象。この機会にQRコードから登録をお願いします。



表示
イメージです

